iLO ファームウェアアップデートに関する補足

本書は、Starter Pack にて iLO ファームウェアをアップデートするときの注意事項などについて説明します。
本説明文を最後までよく読み、適切に対処してください。

- サーバーに TPM または TM がインストールされている場合、システム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアをアップデートする前に、TPM または TM に関する情報を格納するソフトウェアを一時停止またはバックアップしてください。例えば、ドライブ暗号化ソフトウェアを使用している場合は、ファームウェアのアップデートを開始する前に停止してください。 ソフトウェアを停止せずにシステム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアのアップデートを行った場合、データへアクセスできなくなる可能性があります。
  TPM または TM を使用するソフトウェアを停止していない状態では、システム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアのアップデートを開始しないようにしてください。

- 本 iLO ファームウェアを適用後に.NET IRC を使用する場合は、.NET Framework をバージョン 4.5.1 以降に更新してください。更新していない場合、アプリケーション起動時に例外が発生することがあります。

- 本 iLO ファームウェアを適用後、[情報]-[セキュリティダッシュボード]および右上に リスクが常に表示される場合があります。RBSU や iLO の設定の状態によっては、iLO セキュリティのステータスに リスクが表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処をお願いします。推奨値等の詳細は、iLO 5 ユーザーズガイドを参照してください。
  なお、iLO の負荷の状態により、[情報]-[セキュリティダッシュボード]の”全体セキュリティーステータス”が『リスク』であっても、iLO Web インターフェース画面の右上部の”iLO セキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[情報]-[セキュリティダッシュボード]の”全体セキュリティーステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

- 本 iLO ファームウェアを適用後、iLO 拡張ライセンスがインストールされている場合に、[セキュリティ]-[アクセス設定]-[アップデートサービス]-[ダウングレードポリシー]の設定で、「ダウングレードを永遠に不許可」へ設定しないでください。

  この設定に変更してしまうと、iLO インターフェースや各種ユーティリティからも、この設定を変更することができなくなります。また、BMC 構成ユーティリティの[工場出荷時のデフォルトにセット]オプションにて、iLO を出荷時のデフォルト設定に設定しても、設定はリセットされず、「ダウングレードを永遠に不許可」を維持します。

- [セキュリティ]-[アクセス設定]-[iLO]の[ホスト認証が必要]を[有効]に設定した場合、次に示す事象が発生します。
  - ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出“のメッセージが多数表示されます。
  - Standard Program Package(SPP)を適用するとエラーが発生します。

  また、次のサービスや機能をご利用頂けません。
  - RAID 通報サービス

- iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、及びイベントログ採取機能

- 以下の条件を満たしている場合、iLO5 ファームウェアが、システム ROM で定義されている PMem 用温度センサーをサポートしていないため、サーバーの温度が低い状態でも、ファンが高速に回転する場合があります。

  - iLO5 ファームウェアバージョン： 1.38 以前
  - システム ROM バージョン： v2.00 以降

  iLO5 ファームウェアをバージョン 1.43 以降にアップデートすることで改善できます。

改版履歴

初版	2021/02/19	iLO ファームウェア 2.31 までに対応。
2 版	2021/12/17	iLO ファームウェア 2.55 までに対応。